



このコーナーでは、みなさんやおうちの方に知っておいて欲しい情報について、発信しています。今回は、**子宮頸がんワクチン**についてです。小学校6年生～高校1年生女子を対象に、市町村から子宮頸がんワクチンについての案内が送られていると思います。詳しく見ていきましょう。

参考・引用資料 厚生労働省「HPVワクチンに関するリーフレット」

〈子宮頸がんワクチンの効果と費用〉

効果：約60人に1人くらいの女性になる、子宮頸がんの原因の50～90%を防ぐ。

費用：約5万円

※小学6年生～高校1年生の年度末までに接種を受けると、公費負担（無料）

ワクチンを全て接種するためには、終了するまでに約6ヶ月の期間がかかる。全額無料にしたい場合は、高校1年生の9月末までに1回目の接種を終えている必要がある。



〈子宮頸がんワクチンのリスクと救済措置〉

リスク：接種を受けた部分の痛み・腫れ・赤み

まれに重い症状（アレルギー症状や神経系の症状）・手足の動かしにくさ・広範囲の痛み等⇒ワクチンを受けた1万人に5人の割合で起こる。

※重篤な症状がでた場合には、法律に基づく救済（医療費・障害年金等の給付）が受けられる。

すべてのワクチン接種には、効果とリスクがあります。まずは、子宮頸がんとうつ子宮頸がんワクチンについて知ることから始め、家の人やかかりつけ医と話をして、接種について考えてみましょう。
「厚生労働省 子宮頸がんワクチン」で検索すると、正しい情報にアクセスできます。



将来、子宮頸がんで苦しまないために、できることが2つあります。

① 今からできること

小学校6年～高校1年の女子を対象に、子宮頸がんワクチンの接種を公費でできます。

ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染を防ぐことで、将来の子宮頸がんを予防できると期待されています。
イギリスやオーストラリアなどでは、女子の約8割がワクチンを受けています。



② 20歳になったらできること

子宮頸がんワクチンを受けていても、子宮頸がん検診は必要です。

2年に1度検診を受けることが大切です。

